令和６年度研究プロジェクト研究概要報告

研究種別	■自主研究 18	公益目的事業　19
主査名	長田哲平　宇都宮大学准教授	
研究テーマ	多面的なデータからみた地方都市の物流実態に関する研究	

研究の目的：

本研究では、地方都市で問題となっている都市内の低未利用地である路外駐車施設の集約や、路外駐車施設の荷さばき駐車場としての活用、時間帯規制などの施策検討ができるように、既存統計調査や民間プローブデータなどの多面的なデータを活用して地方都市内での物流実態を明らかにすることを目的とする。

研究の経過（4 月～3 月）：

本研究では、以下の 2 点について研究を進めた。

① 地方都市の交通特性や物流実態調査の状況などを整理する。

② 地方都市である栃木県宇都宮市を対象に、既存統計調査や民間プローブデータなどの多面的なデータを用いて物流実態を明らかにする。

第 1 回目の研究会では、民間プローブデータのうち、貨物車のデジタコプローブデータを用いることとし、分析の方向性を議論した。貨物車のデジタコプローブデータの中身などについて知識を深めるとともに、既存調査の結果から貨物車の駐車時間は短時間の傾向にあることから、閾値を設定することによってデジタコプローブデータでも駐車位置の判定などができるのではないかと考え分析を進めた。第 2 回目・3 回目の研究会を実施しデジタコプローブデータを用いて貨物車の駐車位置や起終点などの分析を行い、既存調査の結果との比較を行った。4 回目の研究会では分析結果を再度整理し、既存調査とデジタルプローブデータのそれぞれの特徴を整理した。なおプロジェクト会議は、合計 4 回（6/28、10/3、12/17、3/28）にハイブリッド開催し、2 回（7/31、2/5）のワーキングを行った。

研究の成果（自己評価含む）：

年間を通じたデジタコプローブデータをもちいることによって、既存調査の実施日が年間のなかでも、特異日となっていないことが確認できた。また年末、年度末など車両の動きが活発になることや曜日変動なども確認することができた。また既存調査では、限られた区間や調査時間での調査結果であるが、デジタコプローブデータで空間的な駐車位置の分布を概観することができるなど、既存調査とデジタコプローブデータの特徴を把握することができた。

今後の課題：

本年度は駐車位置に着目した分析を行った。そこに至るまでの貨物車の走行経路や、周辺道路の交通量と路外駐車場位置など他のデータを組み合わせるなどを組み合わせて、路外駐車場の集約、荷捌き貨物車対策の検討に資する分析が可能であり、今後必要であると考える。